

冬に咲く花

楠瀬 雄三

花の時期と言えば春。もしくは秋の七草に代表される秋でしょう。一方で夏に花を咲かせる植物は比較的少ないため、日本では中国産のサルスベリやキョウチクトウなど、夏に花を咲かす花木が公園などに植えられています。ところで、植物の中には寒い冬に花を咲かすものがあります。ツバキ(図1)やサザンカは有名ですが、他にもアセビやツツブキ、ヤツデ、マンサク、珍しい種としてはヤマハンショウヅルなどがあります。初夏に甘い実をつけるビワも冬に花を咲かす植物のひとつです。ビワはバラ科に属しますが、この科で



図1. ツバキ

は春に花を咲かす種が多い中、冬に咲くという点で変わり者といえます。これまでビワは中国からもたらされた植物と言われてきましたが、福井県や山口県、大分県で自生地が見つかっており、日本の在来種だという説もあります。

ビワは12月ごろに花を咲かせます。この時期、たくさんのメジロが群れをなしてビワの木に集まる光景を見かけますが、よく観察すると、メジロたちはビワの花の蜜を吸っているようです。ツバキやサクラの花にメジロやヒヨドリが蜜を吸いに来ているのを見かけた方がいるかもしれませんが、じつはこれらの鳥は、ツバキやサクラの花粉を運ぶ役割を担っているといわれています。きっとビワも同じように、鳥が花粉を運んでいるのでしょう。暖かい日にはミツバチが蜜を吸いに来ているのも見かけるので、鳥と昆虫の両方が花粉を媒介しているのかもしれません。

気温の下がる冬は植物の生長には適しておらず、多くの種は葉を落とすなどして耐え忍んでいます。花粉を運ぶハチなどの昆虫も、寒い冬にはほとんど活動しません。冬は植物が花を咲かせるのに適した季節とは言えないのです。ではなぜ、この時期に花を咲かせる種があるのでしょうか。それにはいくつか理由があります。まず、花を食べてしまう昆虫が少ないことです。暖かい季節は花粉を運ぶハチやアブなどが多い一方、花を食べてしまう昆虫も多いのです。例えばガやゾウムシの幼虫の中には花を食べるものがありますが、こうした幼虫が活動を低下させる冬に花を咲かせることで、花を食べられないようにしていると

考えられています。また、前述したツバキのような、鳥に花粉を運ばせる植物にとっては、他の花が少ない時期に花を咲かせることは、花粉を運ぶ鳥を独り占めできる利点もあります。他に、セツブンソウ（図2）やユキワリイチゲなども、まだ肌寒い早春に花を咲かせます。この時期は周りの樹木がまだ葉を落と



図2. セツブンソウ

したままなので、林内は明るく、日の光を十分に浴びることができます。暖かい日にはハチなどが活動し、これらの植物の花へやってくるようになります。このように、他の植物よりもいち早く花を咲かせるものもひとつの戦略なのです。寒い冬にはつつい外に出るのをためらいがちになりますが、そんなときにも皆さんの目を楽しませてくれる花が待っていると思います。

（くすのせゆうぞう きしわだ自然資料館専門員）

岸和田城天守閣モデルはどのお城？

山岡邦章

現在、さまざまな資料を展示したり、結婚式を行ったりしている岸和田城って、戦後に再建された天守なのは御存知ですか？慶長2年(1597)につくられた天守は、文政10年(1827)に落雷で燃えてしまいました。なので、当時の天守がどのようなものであったのかを知るための資料は、他の城に比べて極端に少ないのです。

現在の天守閣を設計した建築家の池田谷久吉^{いけだ やひさきち}は、当初の建築申請を大阪府が不許可とした際、この設計は「学術的に考証した桃山様式を踏襲したもの」として反論しています。しかし、その根拠となるものは示されておらず、どの城をモデルにしたのか、現在となってはわからないのが現状です。

昭和28年(1953)にはすでに、池田谷による設計図があるようですので、その頃に存在した天守を参考にしたと考えられますが、現在の岸和田城と同様の望楼型^{ぼろうがた}(物見櫓があるもの)、白壁、3層の天守の条件を満たした城は限られます。

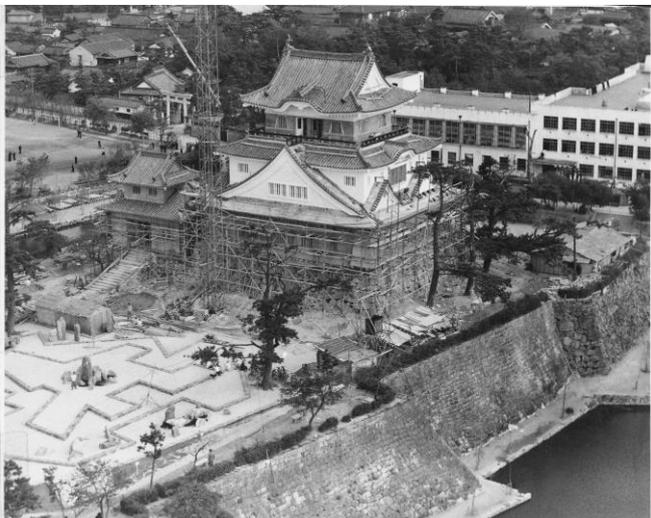


図3. 建設中の岸和田城

昭和28年当時存在したのは、明治時代の廃城令や、第二次世界大戦による空襲などで失われた天守閣が相次いで復元された、いわゆる戦後の天守閣復興ブームの前ですから、いわゆる江戸時代からの「現存天守」と呼ばれるものが、岸和田城を設計するうえで参考にされたと考えられます。そのうち、3層のものは、犬山城(愛知県)、彦根城(滋賀県)、高知城(高知県)、宇和島城、松山城(ともに愛媛県)、丸亀城(香川県)、弘前城(青森県)などがあります。印象としては彦根城が最も似ていると思われませんが、残念ながら根拠がありません。形式的には犬山城も類似しますが、望楼

Information

●自然資料館の展示・講演会

特別展「タコの王国」

タコは、日本人にとってなじみの深く身近な魚介類。古来から、タコツボや釣り、かごわななど、いろいろな方法でタコをとってきました。また、そのユーモラスなすがたや生態から、絵やおもちゃ、物語などにもたびたび登場します。

本特別展では、日本近海で見られる種類や生態、漁法、民俗、歴史など、タコに関するさまざまな話題を分野を超えて紹介します。

本展示は、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて開催します。

会 期:2019年11月16日(土)～2020年1月26日(日)

時 間:午前10時～午後5時(入場は午後4時まで)

会期中の休館日:平日の月曜日・12月28日～1月3日・1月14日

場 所:きしわだ自然資料館1階ホール(堺町)

入場料:高校生以上400円・中学生以下無料

※11月16日と17日は、関西文化の日で入場料無料

特別展期間中のミニ実習

※午後2時～午後4時・先着20名・入場料要

◇ジオマグであそぼう(11月17日)

◇化石のレプリカをつくろう(11月23日)

◇チリメンモンスターをさがそう(11月24日)

◇クリスマスリースをつくろう(12月8日)

◇海藻おしばをつくろう(12月15日・材料費300円)

◇ミミックオクトパスのペーパークラフト(12月22日)

◇チリメンモンスターをさがそう(1月5日)

◇ビーズでタコとタコツボをつくろう(1月12日)

◇タコの浮沈子をつくろう(1月13日)

◇折紙の魚釣りとタコづくり(1月19日)

◇大阪湾の漂着貝殻で遊ぼう(1月26日)

●岸和田城の展示

現在開催中!「四季を彩る絵画展」

岸和田市所蔵の絵画の中から「四季の美しさ」を表現した作品を集めた絵画展です。

時 間:午前10時～午後5時(入場は午後4時まで)

休場日:平日の月曜日・臨時休館あり

場 所:岸和田城天守閣2階展示室(岸城町)

入場料:高校生以上300円・中学生以下無料

●岸和田の郷土史展示

知ってほしい「煉瓦製造の魅力」～岸和田・泉州地域～

岸和田のかつての主要産業のひとつ「煉瓦製造」。岸和田で生産された煉瓦やかつての工場の写真などを展示します。

日 時:2019年11月9日(土)・11月10日(日)

時 間:午前10時～午後5時

場 所:自泉会館(岸城町5-10)

入場料:無料

問合せ:岸和田文化事業協会(072-437-3801)

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【fromM】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページURL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(googleなどの検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)